

# 平成26年度 第2回長岡市図書館協議会

日時：平成27年2月13日（金曜日）午前10時から正午まで  
会場：中央図書館2階 講座室1

会議出席者 委員： 渡邊委員長 淵本副委員長 恩田委員 小林委員 谷委員  
内籐委員 林委員 藤澤委員 松本委員

※欠席：湯本委員

事務局： 金垣館長 島田館長補佐 岩渕庶務係長 松矢奉仕係長  
石井文書資料室長 指定管理者田原統括責任者 同高橋業務  
統括チーフ 同渡辺業務統括チーフ

## 1 開会

## 2 議事（議長 渡邊委員長）

### （1）報告事項

- ① 平成26年度の重点事業について
- ② 大手通表町東地区再開発について
- ③ 平成27年度の主な事業計画（案）について

### （2）協議事項

- ① 平成26年度長岡市立図書館の活動評価について
- ② 平成27年度の運営方針（案）について

## 3 閉会

## 4 会議録要旨

### （1）報告事項 ①平成26年度の重点事業について

○長岡市災害復興文庫の資料群（被災歴史資料 災害復興関連資料）は、データベースになっているのか。資料自体はどこで見れるのか。現在、紙ベースの資料は、いずれデータベース化するのか。

⇒国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」で検索できるものは、目録情報のみであり、資料はデータベースになっていない。資料は、文書資料室で見ってもらうことになる。避難所資料は文書資料室にあり、被災歴史資料は一部を浦瀬町倉庫に保管している。そのため、すぐに閲覧できない場合がある。紙ベースの資料は、順次、データベース化して、「ひなぎく」に掲載していきたい。

○リレー講演会「災害史に学ぶ」に数回参加した。今までと切り口の違った焦点を当

てでの講演ということで、興味深かった。11地域を会場とした分散実施は、事務局も大変だったと思う。中央図書館での災害の展示会も、グループで見学することができ、説明を聞いて、被災資料の保存の重要性を認識した。

(1) 報告事項 ②大手通表町東地区再開発について

○再開発でまちなかに人がやってくることを期待している。たとえば、新しい図書館のサービス機能の一つとして、中・高校生が自習する場に1日1科目でよいから、OBの先生に図書館にいてもらい、いろいろな質問に答えるサービスをしてはどうか。市内に住む先生は大勢いる。退職後、週1回でも本人の勉強を兼ねて図書館に足を運んでもらい、そこで児童・生徒からの質問を受ける仕組みを作ってもらおうとレベルが上がる。子どもたちも勉強の延長線上で図書館にきて、利用状況もよくなる。  
⇒方針が決まった時点で、協議会でご意見をお聞きすることになると思う。まちなかには、塾待ちの子どもたちが大勢いることに加え、交通の便がよく、高齢者も集まりやすいという立地条件がある。その点を踏まえながら、こういったサービスが必要なのかということは今後、検討していきたい。

(1) 報告事項 ③平成27年度の主な事業計画(案)について

○合併10周年も大事だが、戦後70周年も、空襲から70年と言うこともあるので、何らかのことを打ち出すことは大事である。「合併10周年記念 郷土長岡を創った人びと展(仮称)」では、約20人を紹介するということだが、いろいろな人物がいる。誰を選ぶかは難しいと思うが、よく検討して、大いにPRしてほしい。  
○平成15年から、8月1日の午後10時30分に花火「白菊」を3発打ち上げ、市内の寺院で梵鐘するということが始まった。意外と知られていないが、昭和20年8月1日のこの時間に空襲が始まり、それを慰霊するために2日・3日の花火大会が始まった歴史を考えると、「白菊」が上がった時に静かに手を合わせることが長岡市民としてあるべき姿ではないか。戦後70周年の今年、長岡花火の歴史、長岡花火への想いがどう変わってきたかも、少しまとまって展示してあると、意味のある展示になる。

(2) 協議事項 ①平成26年度長岡市立図書館の活動評価について

○実績の増減には、こだわらないほうがいい。しかし、外部評価、客観的評価をしなければいけないのが現状である。いろいろ努力しているのはわかるが、結果的にB評価というのは切ない。基準があってそれが出た以上は、マクロ的な環境変化(人口減少・高齢者の増加・子どもの減少など)、ミクロ的な長岡の各図書館が持っている事情によって減少傾向に至ったという部分もあるはず。要因分析は難しいと思うが、ミクロ的な面とマクロ的な面を織り込んだ上で、次への改善策の方向付けを

してほしい。貸出数も多ければいいというものではない。入館者数も含めて、どう  
いう図書館を目指すかということが問われる。日ごろから、進めながら振り返りつ  
つ、次につなげていくために、P D C A (Plan、Do、Check、Act) を行ってい  
く必要があるのではないか。

○学校の先生の協力をもっと得たら、子どもや保護者の利用が増えるのではないか。  
一番説得力のあるアプローチができるのは学校の先生で、先生がもっと図書館の利  
用の促進や本の良さを、保護者や児童生徒と接する機会に事あるごとに言ってもら  
えば、だいぶ状況は改善するのではないか。今まで連携が薄かったとしたら、もっ  
とお願いしてみてもどうか。

○今の意見に賛成だ。学校の先生に、図書館に行けば違ったものがあると、啓発して  
もらうことはよい。ぜひ、お願いしたい。

○企画展の入場者数が減っているということだが、去年は山下清展、一昨年は金澤翔  
子展と全国的なテーマの話題性のある企画だった。今年はややマニアックなものだ  
った。どれくらい減ったのか。

⇒山下清展の約9,000人から、約3,100人に減った。

○来年度の展示会が合併10周年、戦後70周年という節目の展示であることを考え  
ると、市政だよりに掲載して終わりということではなく、折り込みチラシの全戸配  
達など、費用もかかると思うが広報を工夫して、入場者数を増やしてほしい。

○評価にBがたくさんついていると悲しい。大型書店がでてきたり、調べものをイン  
ターネットで調べる社会になったということで、図書館に求められるものが相対的  
に量的に低下しているのか。図書館が揃えた本や、図書館サービスの内容に対して、  
実際に求めている人の現実は、こういうものだということを客観的に見なければい  
けない。

○入場者数が減ったということだが、図書館の広報手段は基本的に市政だより、チラ  
シだけなのか。

⇒HPでの広報や報道機関への投げ込みなどもしている。

○有料イベントでもフェイスブックを活用するなど情報発信を工夫することで申し込  
みが増え、県外からも参加者が集まる。情報発信の工夫が必要ではないか。

○学習室の利用を貸出カードを持たないとできない、というようにならないのか。

⇒使いやすさを考え、貸出カードがなくても、学習室の利用ができるようにしている。  
見直すことは考えていない。

○貸出カードを持たない来館者にアピールするのがいいのではないか。また、貸出だ  
けでなく、入退館時にもチェックがかかるようにできないか。防犯になる。

⇒貸出カードにチェック機能を導入している図書館はある。多機能な貸出カードは、  
サービスとして有効かもしれない。学習室の利用者は、昨年度、1年間で約1万人  
あったが、本を借りないで勉強をして帰っていく場合が多い。その人たちにどう働  
きかけ、本を借りてもらえるかは、大きな課題と考えている。

○今度、企画されている、「おとなの図書リンピック」はいい。ただ、去年の例をみ  
ると、宣伝があまりうまくない。参加した人は喜んでいたが、知らなかったという

人も大勢いた。図書館全体で盛り上げて、宣伝してもらいたい。

- 重点事業2-1-②「各図書館のテーマコーナーの整備」の評価がBになっている。新たなテーマに取り組んだりPRに努めたりしたが、実際の利用者増に結び付かなかったということだと思うが、そのコーナーをめぐって人の流れが多かったとか、並べた本を借りていく人が実際は多かったとかであれば、評価をAにしてもいいのではないか。全体の利用者数が減ったことと、PRしたものの効果がないのとは違う。実際の状況はどうだったのか。
  - ⇒コーナーの前で立ち止まる人は多かった。統計として、このテーマの本の貸出回数の数字はわかenらいが、テーマコーナーの設置の目的が利用促進だったので、全体的な図書館の利用を促進するほど頑張れなかったということでB評価になった。
- 長岡市災害復興文庫は大変意義がある。しかし、中越大震10周年が過ぎれば、熱も冷めてしまう。市外の評価は高いが、市内の認識が意外と進んでいない気がする。PRが大事になると思う。新年度以降に向けて何か方策を考えているのか。
  - ⇒長岡市災害復興文庫については、文書資料室が公開していることなど、まだまだ市民に理解されていない。まずは「ひなぎく」に写真データを載せることに努めていきたい。平成28年度に東日本大震災5周年を迎えることもあり、当面は、山形・福島・宮城の被災地との交流を行い、そのPR効果が市内にも波及されることを期待している。また、長岡市災害復興文庫の図録作成を来年度、企画しており、様々な手段で、市民へのPRを行っていきたい。
- 確かに市外で評価されると、市民は振り返る。外から攻めて内に、というのは一つの手だと思う。
- 昨年秋、図書館友の会が活動を評価されて、全国図書館大会で図書館支援団体として表彰された。
- 雑誌のリクエストは、基本的に受け付けていないとのことだが、その理由を教えてください。
  - ⇒雑誌は年間契約で購入しているので、購入が決定されると1年続くことになる。毎年秋に次の年の雑誌についての検討会があり、受け付けたリクエストもその場で検討している。リクエストを受け付けないということではない。
- 同一雑誌を全館で何冊所蔵するかは、予約の件数も考慮して決めているのか。
  - ⇒予約が多いものは、新刊をなかなか借りることができないので、予約数によって所蔵する館の増減を検討することもある。新刊雑誌は、借りられない間、色々な人が閲覧するので、その利用具合も考慮している。
    - ⇒高校生のアンケートの実施にあたっては、藤澤委員から高校の校長会に交渉してもらうなど配慮いただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。
- 学校図書館にも課題がある。生徒が使わないと図書館は何のためにあるのか。学校図書館も学習室の利用が中心となっている。本来の図書館の活用ではないのでどうしたらいいのか、全県の学校で図書館の在り方について考えている。生徒が使い、活用する図書館とはどういうものなのか。一方で、生徒が市の図書館を活用するかどうかであるが、生徒を動かすようなイベントをしてもらえると、利用が増えるか

もしれない。先生の言うことを聞くのがという話があったが、休みの日になると、学校と生徒ではなく、親と子になる。親が行けば子どもも付いてくる、子どもが行けば親が付いてくる。PRについては学校がしてもいいので、子どもをターゲットとする何かをやって、親も一緒に付いて来させるような、そういう手を使って図書館を活用してもらうのがいいのではないか。

○重点事業評価2-4「積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施により、さらなる利用の拡大を図る」は、事業別評価、総合評価が全てAだが、重点事項の「積極的な広報やくふうを凝らした事業の実施」について、先ほどイベントの広報で他のメディアでの広報を検討してはという意見があった。このままの評価でいいか。

⇒丸木展は入場者が少なかった。PR面が弱かったかもしれない。「積極的な広報や工夫を凝らした事業の実施」が大きな事業目標なのだが、個別の事業のどこで積極的な広報を取り上げているかという点。3つの事業評価はそれぞれAとしたが、肝心の積極的な広報をどこで評価するかが明確になっておらず、課題があったことは確かである。「評価は認められるが、積極的な広報については、もう少し工夫が必要」という付帯意見にさせていただきたい。

○評価はこのままで、付帯意見としたい。

## (2) 協議事項 ②平成27年度の運営方針(案)について

○平成27年度運営方針(案)の重点事項5「勉強会や職場内研修をはじめ様々な研修機会を確保し、図書館職員の資質の向上を図る」で、勉強会が研修会の前に出たのは画期的である。中央館にせよ、地域館にせよ、職員のスキルアップにつながってくるので、目標値クリアだけでなく、実のある研鑽をしてほしい。指定管理者の基本方針4「利用者が安心して良質な図書館サービスを受けることができるよう、中央図書館は地域図書館の管理運営にあたる指定管理者との連携を強化するとともに、適切な指導を行う」の内容については、実のある連携と適切な実のある指導ということで、相互のコミュニケーションをより密にしていきながら、進めてもらいたい。

○中央館も地域館も同和問題についての研修を実施しているが、一般的な同和問題について研修しているのか。

⇒内部研修の同和問題研修会は、市の担当部局の職員と図書館の担当者が講師を務めた。概論を前半に説明し、後半は中央図書館が所蔵している資料や各地域の問題について情報共有を行った。勉強会は、著作権法をテーマに実施した。

○大学の卒業研究で生存している詩人の作品をデザインした学生がいて、当然著作権は切れていないのだが、よい作品だからホームページに載せるのはどうかという話があった。今、TPPで親告制なのか非親告制なのか検討されているが、もしアメリカ型になってやったらアウトになってしまう。古いから大丈夫というものと、勝手に利活用すると危ないというものを常識的に理解していないと結構痛い目にあうかもしれない。図書館としても、著作権について利用者にわかりやすく、示してもらえればありがたい。